

エル・ハッサン・ビン・タラール王子殿下

エル・ハッサン・ビン・タラール殿下は1947年3月20日、アンマンにおいて、預言者ムハンマドの直系である、ハシミテ家の分家に第42代子孫として誕生された。殿下は故タタール王とゼイン・エル・シャラフ王妃の末王子であり、故フセイン国王の弟君である。

殿下は1965年4月、ヨルダンのハシミテ王家で正式に王位継承者と定められた。

1999年1月、故フセイン国王陛下により王位継承が変更され、殿下は国王側近の政治顧問、また、国王陛下親近の代理となられ、同時に、国王が海外でご不在のときの統治者を務められた。

ハッサン王子はアンマンで主として個人教授により初等教育を終えられた後、サマーフィールドで英語の予備学校に通われた。1963年、王子はパークハウスのハロウ・スクールにご入学、次いでオックスフォード大学のクライスト・チャーチ・カレッジに入学された。オックスフォード大学の東洋学学部で優等で学士号を取得され、その後修士号も取得し卒業された。

ハッサン王子が授与されたその他の学位は下記のとおりである：

トルコのボスジッチ大学で名誉科学博士号（1981）、イギリスのダーラム大学で民法名誉博士号（1990）、米国シカゴのユダヤ教学スペルタス研究大学で人文学名誉博士号（1995）、北アイルランドのアルスター大学で名誉人文学(Humane Letters)博士号（1996）、ロシアのモスクワ州立国際関係学研究所で名誉博士号（1997）、イギリスのバーミンガム大学で法学博士号（1999）、トルコのビルケント大学で名誉博士号（1999）、イギリスのハートフォートシェア大学で名誉法学博士号（2000）、ドイツのチュービンゲン エーベルハルド-カールズ大学カトリック神学部で名誉神学博士号（2001）、米国オクラホマ大学で名誉人文学(Humane Letters)博士号、イギリスのヨーク大学名誉博士号（2002）、イギリスのポーツマス大学で名誉法学博士号（2002）、パキスタンのイスラマバード 国際イスラム教大学で名誉法学博士号（2005）、イギリスのロンドン大学東洋・アフリカ研究学部 (SOAS) で名誉学位（2005）、米国のノーフォーク オールド・ドミニオン大学でワールドアカデミー勲章と名誉学位（2005）、ブラジルのリオデジャネイロ カンディドメンデス大学 (UCAM) で名誉博士号（2006）、ブラジルのブラジリア高等教育研究所(IESB)で名誉博士号（2006）、ブラジルのサンパウロ the Faculdades Metropolitanas Unidas (FMU) で名

誉博士号（2006）、米国のボストン ブランデイス大学人文学部で名誉博士号、日本の創価大学で名誉学位（2006）。

ハンガリーのEötvös Loránd 大学から名誉博士号、スウェーデンのルンド大学、文学部から名誉博士号（2007）

ハッサン王子は1996年9月、アラブレッドクレッセント・赤十字協会よりアブ・バクル・アル-シッディーク勲章を授与され、1997年にはマドリッドで1995年「科学と社会」賞を受賞された。2001年4月、モアハウスカレッジの「国際和解の日曜日」期間中にマーティン・ルーサー・キング・ジュニア国際チャペルにおいて、第1回ガンジー・キング・イケダ Community Builders Medal and Torch of Nonviolence（地域社会構築勲章と非暴力の灯火）賞を受与された。

また、2002年4月、ボストンのジョン・F・ケネディ図書館財団より「最優秀海外来賓」賞を、2003年6月には2003年度の「ラビ・マルク・H・タネンバウム諸宗教理解推進」賞を受けた。2004年1月、ハッサン王子は「アブラハム基金共存推進パイオニア」賞（ニューヨーク）を、続いて10月には王子の働きに対し、オーストリア共和国より「第1等金帯名誉大勲章」(Grand Decoration of Honour in Gold Sash 1st Class)を授与された。2006年2月13日、ハッサン王子は科学と文化協会（ISESCO）の国際イスラム教教育大使に任命された。2006年11月、ユネスコのベルリン支部でハッサン王子を2006年「ベルリン平和の時計」賞の受賞者に指名した。指名の理由は恒久人権宣言の精神に基づいた、人間同士の分断を克服するために輝かしい貢献を成したことであった。2007年5月、ロシアのペテルスブルグのYusupov王宮で開催された「寛容財団」の発足式典においてユネスコ憲章採択60周年記念のメダルがハッサン王子に授与された。

20カ国以上より様々な賞を授与されている殿下は、ヨルダン王国最高の勲章である「アル・フセイン・ビン・アリ」の叙勲者でもある。この勲章を1987年3月に故フセイン国王陛下より賜った。また、殿下はヨルダン王国軍の名誉将軍を拝命されている。

ハッサン王子は数多くのヨルダン国内及び国際組織や委員会を創設し、また、積極的にかかわっておられる。ヨルダンで殿下は以下の組織を創設された：

*

1970年 王立科学院

*

1981年 アラブ思想フォーラム

*

1987年 高等科学技術会議

*

1994年 王立諸宗教研究所

ハッサン王子は国の第一開発計画（1973－1975）を立案する委員会の議長を務め、以後3回に及ぶ開発計画（1976－1980、1981－1985、1986－1990）でも議長として活躍された。また、1978年、毎年行なわれる「ビラド・アル・シャム会議」を、1978年、「アル・アル・バイト財団」を創設された。さらに「イスラーム科学アカデミー」、3年に一度開催する「ヨルダンの歴史と考古学会議」、「ハシミテ援助・救援局」、「教育開発センター」、「外交研究所」、マフラクの「アル・アル・バイト大学」を創設された。

常に若者たちに心をかけておられる殿下は、若い世代のコミュニティの重要性を実感され、1982年、「フォーラム・ヒューマニズム」（1988年にアラブ・ユース・フォーラムと改名）を設立された。1984年、「クラウン・プリンス」賞（1999年に「エル・ハッサン・青年」賞と改名）を設立、そして関連のプログラムとして1988年に「サビラト・エル・ハッサン」を設立された。

ハッサン王子のアイデアと指導力は国際的な場面での様々な意思決定や問題解決において、触媒的な役割を果たしている。1981年、第36回国連会議の演説を行われた際、殿下は「新国際人道秩序」の作成を提案されたが、後にこの提案は事務総長の要請による「国際人道問題に関する独立委員会」（ICHI）設立となり、共同議長を要請された。この委員会による最終報告書は第42回国連総会での決議として採択された。2002年7月、ハッサン王子は、アンカラのビルケント大学評議委員会議長であるイーサン・ドグラマッチ(Ihsan Doğramaci) 教授と共に、「国際文化財団」を創立された。さらに2004年、「文化の議会」(the Parliament of Cultures) が発足し、異文化間の理解と有識者同士の交流と対話の促進、と言う課題を財団の目標に掲げ活動が始まった。2003年7月、殿下は「パートナーズ・イン・ヒューマニティ」(Partners in Humanity)を発足させ、Search for Common Ground (SFCG) のジョン・マークスと協働で活動を始めたが、この組織の目的はムスリムと西洋社会との関係改善、理解と対話の促進である。

ハッサン王子と三つの団体の理事会メンバーの協力により「諸宗教と諸文化の研究および対話推進財団」(FIIRD)が設立された。「三つの団体」とは、スイスの the Orthodox Centre of the Ecumenical Patriarchate at Chambesy (オーソドックス教会総主教によるエキュメニカル協議会)、バチカンの the Pontifical Council for Inter-religious Dialogue (ローマ教皇庁諸宗教対話評議会)、イギリスの the Independent Commission on Christian-Muslim-Jewish Relations through the aegis of the Deanery of Windsor (ウィンザー公の御後援によるクリスチャンームスリムユダヤ教徒独立委員会)である。

ハッサン王子が議長またはメンバーである国際組織や委員会は多数あるが、下記はその代表的なものである：

*

「ローマクラブ」理事長（1999－現職）

*

「人権問題に関する独立委員会事務局」理事長

*

オクラホマ大学国際プログラムセンター内「平和研究・紛争和解センター」理事長

*

サンクトペテルスブルグ「人道主義と社会学のための国際寛容財団」共同所長（2006－現職）

*

「権利と人間愛」の国際支援者

*

「大量破壊兵器委員会(WMDC)」コミッショナー

*

ワシントンD.C. 「核の脅威イニシアチブ (NTI)」理事（2002－現職）

*

「三者委員会」メンバー

*

「フォーラム2000」国際諮問委員会メンバー

*

「地中海カタロニア研究所」名士委員会委員(2001-現職)

2003年6月、国連総会決議案56/266において、殿下は独立高等専門家グループの5人の地域専門家の中に一人に国連事務総長より任命された。この任務は2001年南アフリカのダーバンで開催された「人種偏見、差別、外国人排斥、その他の関連する不寛容に反対する世界会議の宣言とアクションプログラム」を遂行することである。

1999年11月、「世界宗教者平和会議」(WCRP)第7回世界大会がアンマンで開催され、ハッサン王子はWCRPのモデレーターの役割を2006年の第8回世界大会までの間、引き受けることを受諾された。その後は名誉会長とされている。

殿下は「世界知的所有権機関」(WIPO)の政策諮問委員会議長として、1999年から2002年まで職務を全うされた。また、「ユネスコ国際諸宗教諮問委員会」委員、「ユネスコ文化と開発世界委員会」の名誉会員、としても活躍された。また、「国連難民高等弁務官」の非公式諮問委員グループの一人として活動され、「国際クライシスグループ」の執行委員会と評議員会メンバーも歴任された。

殿下は新聞、機関紙、雑誌、専門誌、さらに地域別や国際規模の特定の出版物への多岐にわたる貢献をされている。ハッサン王子のご著書は今までに下記の7冊である：

*

「エルサレムの研究」(1979) 英語

*

「パレスチナ人の民族自決」(1981) 英語、アラビア語

*

「平和を求めて」(1984) 英語、アラビア語

*

「アラブ社会のキリスト教」(1994) 英語、アラビア語、フランス語、スペイン語

*

「Essere Musulmano」- アラン・エルカン共著 (2001) イタリア語、フランス語、スペイン語。 「ムスリムであること」(2003) 英語

*

「継続、革新、変化」: エッセイ集 (2001)

*

「ファイサル I 世を偲んで: イラクの問い」(2003) アラビア語

ハッサン王子はヨルダン国内外でスポーツ振興のため活動されている。武道・ Polo・

スクワッシュ連盟の会長として、殿下はこれら三つのスポーツの発展の推移を展望され、国際競争に勝てるよう見守って来られた。テコンドウ第7段黒帯の保持者であり、ヨルダン王室 Polo チームのキャプテンである上に、殿下はスキー、ハイキング、登山、スキューバダイビング、水泳、水上スキーを楽しまれる。また、ヘリコプターのパイロット免許も保持され、殿下の名前を冠したパラシュート走路をいくつか所有される。

ハッサン王子はアラビア語、英語、フランス語にご堪能であり、聖書のヘブライ語は学位取得の際勉強された。また、殿下はドイツ語、スペイン語、トルコ語の知識も持っておられる。ハッサン王子のご趣味は読書、映画鑑賞、ラテンアメリカとフラメンコ音楽である。しかし、殿下が最も楽しみにされている事は、ご家族と過ごされる時間である。

殿下は1968年、サルヴァット妃殿下と結婚された。サルヴァット妃殿下はインド亜大陸の名家から嫁がれた。お二人は4人のお子様方に恵まれた: ラーマ、スマヤ、ゼインの各妃殿下とラシド王子である。そして6人のお孫様がおられ、双子のタリクとゼイン・エル・シャラフ、アリ、スカーニヤ、アイシャ、アレフの皆様である。

2007年3月18日現在